

折に触れ 四字熟語

NO. 49 〔九夏三伏〕 きゅうか さんぷく

< 意味 > 夏のこと。また、夏の最も暑いころをいう。

語 釈：「九夏」は九旬の夏の意で、夏の九十日間。夏いっぱい^{かのえ}を指す。「三伏」は初伏（夏至後の三度目の庚の日）、中伏（四度目の庚の日）、末伏（立秋後の初めての庚の日）のこと。夏の最も暑い時期をいう。

用 例：島崎藤村の詩集「落梅集」の中に「七曜のすさび」という文章の部分があります。その中に「日曜日の談話」という一文があり、そこで画工の言葉として引用されています。
『・・・ひたすらに絵画を好めるの心にほだされて、あるときは九夏三伏の暑さにも砂^{いさご}に坐り草に伏して独り写生に心を砕き、・・・』

一 言：夏シリーズその2

参考文献：三省堂「四字熟語辞典」 岩波書店「四字熟語辞典」 筑摩書房「藤村全集第一巻」